



医療や福祉を守れと厚労省にむかって声をあげる「輝け！いのち4・24ヒューマンチェーン」の参加者=24日、東京・日比谷野外音楽堂

命と暮らしを守るろう 5000人超

医療・介護総合法案を廃案に

入院医療と介護保険サー
ビスを削減する医療・介護
総合法案が国会で審議され
る中、全国から集まった医
療や介護、福祉関係者ら5
千人余が24日、同法案を廃
案に追い込もうと、国会議
事堂を取り囲みました。花
の谷クリニックの伊藤真美
院長、認知症の人と家族の
会の勝田登志子副代表、日
本赤十字看護大学の川島
みどり客員教授、済生会
栗橋病院の本田宏院長補
佐の4氏が呼びかけまし
た。

「政府は制度の持続性だけ
を前面に出してサービスク
減、利用者負担の引き上げ
を押し進めている。職員、
高齢者の暮らしが持続しな
ければ意味がない」と訴え
ました。

入院医療と介護保険サー
ビスを削減する医療・介護
総合法案が国会で審議され
る中、全国から集まった医
療や介護、福祉関係者ら5
千人余が24日、同法案を廃
案に追い込もうと、国会議
事堂を取り囲みました。花
の谷クリニックの伊藤真美
院長、認知症の人と家族の
会の勝田登志子副代表、日
本赤十字看護大学の川島
みどり客員教授、済生会
栗橋病院の本田宏院長補
佐の4氏が呼びかけまし
た。

「政府は制度の持続性だけ
を前面に出してサービスク
減、利用者負担の引き上げ
を押し進めている。職員、
高齢者の暮らしが持続しな
ければ意味がない」と訴え
ました。

入院医療と介護保険サー
ビスを削減する医療・介護
総合法案が国会で審議され
る中、全国から集まった医
療や介護、福祉関係者ら5
千人余が24日、同法案を廃
案に追い込もうと、国会議
事堂を取り囲みました。花
の谷クリニックの伊藤真美
院長、認知症の人と家族の
会の勝田登志子副代表、日
本赤十字看護大学の川島
みどり客員教授、済生会
栗橋病院の本田宏院長補
佐の4氏が呼びかけまし
た。

「政府は制度の持続性だけ
を前面に出してサービスク
減、利用者負担の引き上げ
を押し進めている。職員、
高齢者の暮らしが持続しな
ければ意味がない」と訴え
ました。

↓関連⑥面



安心の医療・介護すべての人に

国会包む 声・声・声

「すべての人に安心の医療・介護を」「社会保障を改悪するな」

。初夏を思わせる青空の下、医療・介護総合法案に反対する5千人余の声が24日、国会

国会を包囲した「輝け！いのち4・24ヒューマンチェーン」の参加者。24日、国会正門前

を包みました。済生会

栗橋病院の本田宏院長補佐は「国民第一の政治にしなければならぬ」と強調しました。

花の谷クリニック（千葉県南房総市）の

伊藤真美院長は、消費税増税で格差社会が拡大する中で「医療や介護保障が外されることは問題だ」と、同法案の廃案を訴えました。

福岡県の理学療法士の片山聡子さん(33)は「患者さんは今も、期間が過ぎれば完治しなくても退院させられる。さらに病床数を減らし、患者を追い出す制度改悪には反対です」と話しました。

ナース服で参加した愛媛県宇和島市立吉田病院看護師、若藤美鈴さんは、患者・高齢者

を在宅に移す同法案の

自身が「在宅でも病院にいるのと同じように医療や介護が受けられ

て、安心して暮らせるならともかく、その保障がないまま地域移行をすすめることに反対だ」と述べました。

東京の中野共立病院の小林和苗(かなえ)さん(40)は「医療事務は「医師も看護師も足りません。患者一人ひとりに合わせた適切な医療・介護制度が必要」と参加。看護師の高野美由紀さん(32)は

「要支援1、2の人の介護が地域に委託されないよう声を大にして訴えたい」と強調、「要支援の方でも認知症が進み、ケアが必要な方は大勢います。地域任

せではサービスがなくなったり、手薄になって症状が進んでしまふ」と語りました。

「昨年、過疎地の自治体を回ると、在宅介護の担当者から不安の声が上がっていた」と話すのは、徳島県医師連書記長の井上純さん(47)。「2万人足らずの自治体で要支援1、2の350〜400人が介護保険から締め出され、それを自治体で何とかしろというのが同法案。担当者の悲鳴が聞こえます」

年金者組合奈良県本部委員長の藤垣全弘(まさひろ)さん(79)は「厚生労働省に提出する」とリニックスに署名約2000人分を入れて参加。東京都大田区の茨田総治さん(73)は「板金業」は「保険料が高すぎて月3万円の年金にはきつ

い。医療も介護も利用しやすくして」と訴えました。